ロージー、ヒロインをゆっくりソファに押し倒す。

【①】

ロージー　「（ヒロインをソファに押し倒す）」

【①寄り】

ロージー　「（ゆっくり深いキス数秒）……（口を離す）」

ロージー、ヒロインの顔を見つめる。

ロージー　「……その顔……」

ロージー　「ステージで踊る俺を観てくれる時と、同じだ……」

ロージー　「まるで、見惚れてるみたいに、恍惚とした顔で俺を観てくれる。
お前のその表情が好きだ」

ロージー　「（深いキス）」

ロージー　「っ……！（口を離す）　その表情で観られると……胸が締め付けられて、堪らなくなるっ……（深いキス）」

ロージー　「（唇を離す）……！　目閉じないで。俺を観て。
俺を観たまま……キスしてくれ……（優しいキスからだんだん深く）」

ロージー　「（キスをしながら）……そう……そのまま、目を合わせて……」

ロージー、深くキスをしながらヒロインのシャツを脱がす。

ロージー　「……（唇を離す）」

ロージー、ヒロインの胸元に抱き着く。

【①寄り下】

ロージー　「……（ヒロインを抱きしめる）……（呼吸を一つ）……」

ロージー　「（胸に数回キスをしてから口で愛撫）」

ロージー　「お前も……俺を抱きしめてくれ……（胸への愛撫を再開）」

ヒロイン、ロージーを抱きしめ返す。

ロージー　「（胸へキス一回）……はぁ……触れられてる……お前に……」

ロージー　「（胸へキス一回）……ずっと……こうしてお前に触れたかった……」

ロージー　「（胸への愛撫を再開）」

ヒロイン、ロージーの頭を撫でる。

ロージー　「（気づく）……（口を離す）……頭……さっきも、撫でてくれてたよな」

ヒロイン「なんかね……」

【①】

ロージー「うん？」

ヒロイン「寝顔を見てたら、愛おしくなっちゃったの」

ロージー「っ！　……（嬉しそうに笑みを零す）……そうか……」

ロージー「（俯いて鼻をすする）、はぁ……」

ヒロイン「泣いてるの……？」

ロージー「（鼻をすする）……少しだけ……」

ロージー「『愛おしくなった』、なんて……嬉しくて……っ……（泣きそうな息が漏れる）」

ロージー、顔を上げる。

ヒロイン、またロージーを撫でると引き寄せてキスをする。

【①寄り】

ロージー「なら……もっと撫でてくれ……もっと……愛してくれ……」

ロージー「……（撫でられてる）」

ロージー　「……っ（優しくキスをされる）」

ロージー　「（深いキス長め）」

ロージー、キスをしながらヒロインの下を脱がして秘部に触れる。

ヒロイン、声が漏れる。

ロージー　「……っは（口を離す）……嫌じゃないか……」

ヒロイン、否定。

【③寄り】

ロージー　「……よかった……（耳へキス）……」

ロージー、指で愛撫をする。

【①寄り】

ロージー　「（指での愛撫をしながら）……俺を観て……目を逸らすな……」

ロージー　「……はぁ……頬が赤く色づいて、色っぽくて……綺麗だ……

（顔のあちこちにキス）」

【①寄り→①寄り下】

ロージー　「（キスをしながらどんどん下へ降りていく）」

ロージー、ソファから降りる。

【⑧下】

ロージー　「（ソファから降りる）」

ロージー　「脚、ソファから降ろしてくれ」

ヒロイン、ソファから脚を降ろす。

【⑨下】

ロージー　「（ヒロインの脚を開こうとする）」

ヒロイン、ロージーの手を抑えて止めようとする。

ヒロイン「待って……！」

ロージー　「止めるな。……（ヒロインの脚を開く）」

ヒロイン、恥ずかしがって目を逸らす。

ロージー　「（逸らされたことに気付く）！　……なぁ……（脚にキス）」

ロージー　「こっちを観てくれ。逸らさずに、お前を愛する俺を、ちゃんと観てて」

ヒロイン、少し間を開けてロージーを観る。

ロージー「（小さく微笑み）……（脚に数回キス）……大丈夫……綺麗だよ……凄く……（脚に数回キス）……」

ロージー「（口で秘部を愛撫）」

ヒロイン、声が出る。

ロージー「……声、出てきたな……（口での愛撫を続ける）」

ロージー「……ここも、どんどん濡れてきてて……腰が疼く……（口で愛撫を続けながら）」

ヒロイン「もう……いいっ……！」

ロージー「……まぁだ……もっと、もっとしたい……（口で愛撫を続けながら）」

ヒロイン、声が大きくなっていく。

ロージー「……声、大きくなってきてる……もっと気持ちよくなってきた……？」

ロージー「俺がシてるところ観て……感じて……声、漏れちゃう……？」

ヒロイン、恥ずかしがる。

ロージー　「（小さく笑う）……嬉しい……でも、あんまり大きいと、
他のヤツに聞かれるかもしれないから……（キス一回）
……頑張って、抑えて……」

ロージー　「（口での愛撫を再開）」

ヒロイン、声を抑える。

ロージー　「……そう……上手……」

ロージー　「（口での愛撫数秒）」

ヒロイン「ん……待ってッ……！」

ロージー　「（気づく）っ……（口を離す）」

【①】

ロージー　「……もう、キそう……？」

ヒロイン、頷く。

ロージー　「そっか……俺も……もう限界……っ」

ロージー、自身の下を脱ぐ。

ロージー　「（下を脱ぐ）……横になって……」

ヒロイン、ソファで横になる。
ロージー、ソファに上がる。

ロージー「（ソファに上がる）……体、痛くないか？」

ヒロイン、頷く。

ロージー「そうか……辛くなったら、言って……」

ロージー「……お前のことを考えたら、後ろからの方がいいんだろうけど……」

ロージー「でも……俺……お前の顔を観ながらがいい……前からさせて……いい……？」

ヒロイン、頷く。

【①寄り】

ロージー「（嬉しそうに笑う）……ありがとう……（深いキス数秒）」

ロージー「（キスをしたまま挿入）……んっ……んんんっ……！　んぐっ……んん……」

ロージー「（唇を離す）っ……はぁ……あッ……んん……キッツい……はぁ、はぁ……」

ロージー「……痛く、ないか……？」

ヒロイン「大丈夫……」

ロージー「……よかった……（深いキス）……」

ロージー「（キスしたまま腰を動かし始める）」

ロージー「（唇を離す）……はぁ……はぁ……気持ちいい？」

ヒロイン「うんっ……ロージー、は？」

ロージー「俺も……俺もっ、気持ちいいよ……」

ロージー「（息遣いを数秒）……あぁっ……その目……やっぱり好きだ……」

ロージー「もっと……俺のこと観てて……俺がっ……
お前とッ、気持ちよくなってるところ……観てて……」

ロージー「っ……！　……ッ中……締まっ……はぁッ……！
あっ……腰、抜けそうっ……！」

ロージー「（腰遣いが激しくなる）」

ヒロイン、声が大きくなる。

ロージー「（息遣いを続けながら）っ……また、声っ……大きくなってる……
（深いキスで塞ぐ）」

ロージー「……だめ……外に、聞こえる……（深いキス）」

ロージー「……こうやって……俺が塞いでやるからっ……（深いキス）」

ロージー「ッ……目、閉じるなっ……俺を観て……目合わせたまま……キスして……ッ」

ロージー「（深いキス数秒）」

ロージー「……好き……好きだっ……本気で……お前がッ……！」

ロージー「（深いキスと息遣い数秒）」

ロージー「っ……！　はぁッ……もうっ……出そう……！」

ロージー「お前は……っ？　はぁ……お前も……もう……クる……ッ？」

ヒロイン「あっ……ん、もう……っ！」

ロージー「はぁッ……っ、じゃあ、このまま……見つめ合ったまま……
俺を観たままッ……くっ……！」

ロージー「あぁっ……あぁ、出るっ……あッ……クる……っ！」

ロージー「（噛みつくように深いキス）」

ロージー　「（唇を離して）っはぁ……！　はぁ、クる……出るッ……んんっ……！
はぁ、はっ……出る、出る、でるッ……！」

ロージー　「（キスしながら絶頂）んんんん～～～～……!!!」

ロージー　「（キスしたまま余韻）……んんっ……ん～～……！　……んっ……！」

ロージー　「（唇を離す）んはぁっ……！　はっ、はぁ……！　はぁ……はぁ……」

ヒロイン「ロージー……」

ロージー　「……（深く優しいキス数秒）」

ロージー　「（ゆっくり離れる）」

ヒロイン「愛してる」

ロージー　「うん……俺も……愛してるよ……」

○『シアター・オープンナイト』・廊下→控室（開店前）

ヒロイン、廊下を歩く。

ＳＥ：足音（ＦＩ）

ヒロイン、控室のドアをノック。